

次世代育成と発達障害児者支援の体験博覧会2007 趣旨説明

「次世代育成と発達障害児者支援の体験博覧会2007」は、中京大学現代社会学部辻井研究室が主催代表者となり、特定非営利活動法人アスペ・エルデの会と子どものこころの発達研究センター浜松センターが共同で主催いたします。

このイベントは、社会のなかでの育ちにくさをもつ子どもたち、あるいは発達障害の子どもたちが健やかな育ちをしていけるよう、社会が関心を広げられること、実際にそうした子育ての難しさをもつ子どもたちに対する現状の最新のいろいろな支援技法を紹介し、なおかつ、実際に子どもと家族がそうした支援技法のワークショップに参加できる場を作ることを考えたものです。わが国において、何らかの育ちにくさを持つ子どもたちが少なくなく、いろいろな困難のなかで子育てしている家族が多いのに反して、十分な専門性をもった専門家が少なく、どういう支援技法があるのかさえも十分に伝わっていない段階です。今回、いろいろな支援技法がワークショップ形式で体験できる場を設け、わが国におけるこうした領域での支援の質そのものを向上していきたいという願いも込めております。

イメージとしては、海外の親の会の連合体の年次大会のイメージです。たくさんのワークショップが並び、それらに体験的に参加する形です。当事者(ユーザー)が専門家と一緒に勉強し、自分が興味ある内容を体験的に理解していける枠組みを創りたいと思います。ユーザー側は、どういう支援のバリエーションがあり、どれを自分の地域に持ち帰ればいいのかを知ることができ、また、そうした機会でも、支援者たちはユーザーが何を求めているのかを知ることが出来ると思います。企画といえば講演やシンポジウムという感じから、コンテンツをワークショップなどの体験型に組み替えることは、今日の発達支援の発展状況では必要なことのようにも思います。

参加ですが、11月15日より申込開始しています。

ワークショップ自体が、無料企画以外は、1個1000～数千円の実費参加です。

●日本自閉症協会さんのワークショップ

日本自閉症協会「サポートブック活用術」(日本財団助成事業)

発達障害の子どもを持つ両親を当事者目線でサポートする具体的な方法をサポートブックを作成することによって体験していただきます。このWSはペアレントメンター事業の一環で行われます。

<定員：各回30名> <参加費：1500円(資料代込)> <所要時間：2時間>

開催時間：①10時～ ②13時～

参加対象：①ご家族、ご本人、支援者(学校関係者、施設従事者など)

②ご家族、支援者(保育士、ヘルパーなど)

*詳しくは(社)自閉症協会(<http://www.autism.or.jp/>)をご覧ください

●NPO法人エッジ(藤堂先生&柴田先生)のワークショップ

藤堂栄子・柴田章弘(NPO法人エッジ <http://www.npo-edge.jp/>):「ディスレクシア入門」
ディスレクシアは人目では分からない読み書きの困難です。

教室の中で、日常生活で読み書きの困難を持つことがどのようなことかという疑似体験をワークショップを通じて感じていただき、その時自分がしてほしかった支援をグループディスカッションで確認していただきます。

そして、ディスレクシアとは何なのか、どのような支援をすることが出来るのかを実体験

を通して考えていただきます。

<定員 40 名><参加対象：一般、教師、支援員><参加費 1500 円><所要時間 2 時間>

●日本作業療法士協会さんのワークショップ

OT 協会 <http://www.jaot.or.jp/info.html> 企画 ワークショップ

「作業療法士が行う支援技術～発達障害児に対する道具を使った支援の実際～」

企画 日本作業療法士協会

司会 中路 純子（日本作業療法士協会保健福祉部発達障害部会長）

話題提供

鴨下 賢一（静岡県立こども病院）

須貝 京子（大阪発達総合療育センター）

舟橋 吉美（名古屋市北部地域療育センター）

辛島 千恵子（名古屋大学医学部保健学科）

企画趣旨

作業療法士は、医学的知識を基盤に個人の生活環境やニーズに応じた支援を行っています。提供される各種の支援は、対象者の状況を運動機能、知的能力、社会・心理的側面等を含めて理解をし、より具体的な形で提供できるように工夫をしています。発達障害のある子どもたち（大人も含めて）にも、対象者に直接的に働きかけること、人的環境も含めて環境に働きかけることによって、生活の色々な場面を支援する事が出来ます。

今回は、発達障害児の持つ困難を道具によって軽減し、社会参加を支援する方法を、作業療法の中での位置づけを確認しながら、具体的な試みを紹介したいと思います。

話題提供

1、「作業療法士が行う I T 技術を利用した特別支援教育支援」

鴨下 賢一（静岡県立こども病院）

発達障害児の持つコミュニケーションの困難さを、I T 技術によって支援する方法を、特別支援教育の中での例を中心に紹介します。

2、「学習活動を支える道具」

須貝 京子（大阪発達総合療育センター）

書くことに困難を持つ子供たちに対して、机や鉛筆などのわずかな配慮で改善が見られた例を中心に紹介し、発達障害児に対する環境からの支援の必要性について紹介をします。

3、「発達障害児への座位姿勢援助」

舟橋 吉美（名古屋市北部地域療育センター）

教室で「離席をする、落ち着きがない、姿勢が崩れる、注意集中が持続しない」子どもたちに対して、座位援助によって改善が見られた例を中心に、その有用性について話したいと思います。

4、「子どもの自尊感情を育てる作業療法」

辛島 千恵子（名古屋大学医学部保健学科）

作業療法は、子どもたちにとって意味のある活動を自らが遂行するプロセスで、自尊感情を育てます。作業療法士が、作業療法計画に基づいて介入することで、成果を示す専門職であることを報告致します。

●感覚統合学会のワークショップご案内

「子どもの生活と子どもらしさを支える感覚統合」

ビデオを中心として支援の実際をご紹介していただきます。

講師：加藤寿宏（京都大学医学部保健学科講師）

小松即登（愛知県心身障害者コロニー中央病院）

<開催時間：午後（調整中）><参加費：無料><所要時間：2時間>

●田中康雄先生(北海道大学)のワークショップ

「診察室で行われていること・考えるべき事」

発達障害児者の支援の第一歩として、医療機関への受診は大きなステップです。しかし、実際に受診しようと思った場合、どうやって探せばいいか、何を話せばいいかなど、イメージのつかめないことが多いかもしれません。私の関わった北大相談室の事例を伝えて、そこで感じるべき当事者、親への心にかに近づくか、医師はどのように点に配慮して対応しているかを解説しつつ、皆さんの経験をお聞きしつつ考えてみましょう。

<定員 60 名><参加費 1000 円><所要時間 2 時間>

●市川宏伸(梅ヶ丘病院院長)先生のワークショップ

「お薬について詳しく知る（仮題）」

行動上、調子が悪かったり、感情調整がうまくいかなかったりした場合、薬物療法は現実的に状態を改善することにつながります。自分や子どもが飲んでいる薬がどういうメカニズムで効いているのか、より生活をしやすくする上でどんな薬物療法がありうるのかなど、皆さんで考えてみましょう。薬物療法を受けている場合、自分の飲んでいるお薬のリストを持参ください。

<定員 60 名><参加費 1000 円><所要時間 2 時間>

●清水聡(福井県立大学)先生のワークショップ

「思春期当事者への自己理解とサポート」

中高校生時期の支援としては、自己理解が重要な内容になります。思春期の支援の実際や課題について考えていきましょう。

<定員 30 名><参加費 1000 円><所要時間 2 時間>

●岩永竜一郎(長崎大学)先生のワークショップ

「感覚過敏性への対応（仮題）」

感覚過敏性への対応について、どういう補助的なツールを使えばいいかなど、具体的な紹介も含め、考えていきましょう。

<定員 30 名><参加費 2500 円><所要時間 4 時間>

●安達潤(北海道大学)先生のワークショップ

「ASDの社会性トラブルに対する包括的支援」

ASDの社会性トラブルについて、認知的枠組みから整理し、実際の対応を検討していくアプローチを考えていきましょう。

<定員 30 名><参加費 1000 円><所要時間 3 時間>

●武藤直子先生・太田昌孝先生(心の発達研究所)のワークショップ

「太田 Stage ちょこっと実技講座」

自閉症児者の認知発達（知的な処理能力）を見ていく場合、自分の子どもがどこまで成長しているのか、どこが苦手なところなのか、太田の stage にそって、考えて見ましょう。

【プログラムの詳細】

- ① 太田 Stage の説明
- ② LDT-R の実習
- ③ 教材研究
- ④ まとめ

<所要時間 ①10:30-12:30 ② 13:30-15:30>

<定員：各 20 名ずつ><参加費 2000 円(資料代込み) >

私のおすすめ『認知発達治療の実践マニュアルー自閉症の Stage 別発達課題（自閉症...

●式部陽子・井上雅彦先生のワークショップ

「ひょうご発達障害者支援センターにおける家族支援の取り組み」

市町保健所における「家庭療育支援講座」（ペアレント・トレーニング）の取り組みの経緯と、「家庭療育支援講座」の内容をご紹介します。その後、仮想事例に基づく「手続き作成表」や「いっぱいほめようシート」を作成してみましょ。井上先生は所要で当日は不在ですので、ワークショップそのものはスタッフの式部先生が実施しますが、プログラムは井上先生が責任を持って作成したものです。

<定員：30 名><参加費：1000 円><所要時間：2 時間>

私のおすすめ『自閉症支援はじめて担任する先生と親のための特別支援教育』

●山下裕史朗(久留米大学)先生のワークショップ

「ADHD の子どもたちのためのサマースクール：米国のモデル治療プログラムが日本で有効か？」

米国のモデル治療プログラムである夏期集中プログラムを 3 年間実践してきた久留米市のサマースクールの概要を紹介し、日常的支援のあり方、エビデンスに基づく最新の治療法について紹介します。

<定員：30 名><参加費：2000 円><所要時間：2 時間>

私のおすすめ『めざせ! ポジティブ ADHD 』

●柏木理江(東京都発達障害者支援センター・アスペの会東京)先生のワークショップ

「成人期の高機能広汎性発達障害者へのサポートを考える」

柏木は東京都発達障害者支援センター等で、主に成人期の発達障害者の相談面接を担当しています。

すでに青年期以降にさしかかっている、高機能広汎性発達障害者への支援で、とまどったり悩んだりしている支援者の方に、その糸口が見つかることを願いつつ、アプローチの仕方や関わり方の基礎など一緒に考えていく機会にしたいと思います。

<定員：30 名><参加費 1200 円><所要時間：2 時間>

<参加対象> アスペルガー障害や高機能自閉症の成人に直接的なサポート

(相談対応業務全般、就労支援、生活支援など)を行っている支援者

● 安田九段による「ふれあい囲碁」

安田泰敏(日本棋院)<http://www.nihonkiin.or.jp/player/htm/ki000145.htm> :
「子どもたちのためのふれあい囲碁入門」<http://www.fureaiigo-net.com/>

触れ合い囲碁は、子どもたちのコミュニケーションを促進していくツールとして非常に注目されているものです。実際に、考案者の安田九段に、子どもたちが参加する形態で体験をしていただきましょう。囲碁を知っている必要ありません。知らない方がいいかと思うほどです。あくまでも新しいコミュニケーション・ゲームとしてご参加ください。

ふれあい囲碁版、お菓子、ドリンクつき。

<定員 60 名><参加費 500 円><所要時間 2 時間><対象：子どもたち、支援者>

● 土屋賢治先生(浜松医科大学精神科)のワークショップのご案内

<http://www2.hama-med.ac.jp/wlb/psy/Kodomo/page060tsuchiya.html>

「自閉症の国際診断 (ADI-R, ADS)の意義と臍帯血プロジェクトについて
—早期診断は可能であるか—

生物学的精神医学研究での自閉症に関する知見を、実際に浜松医科大学とアスペ・エルデの会の共同研究を中心にお話していきます。

<定員 60 名><参加費 1000 円><所要時間 2 時間>

● 中村先生(浜松医科大学精神科)のワークショップのご案内

<http://www2.hama-med.ac.jp/wlb/psy/stuff/nakamura.html>

「自閉症の生物学的精神医学研究 (PET 画像研究、分子遺伝学研究) の今後の展望について—診断の向上、治療に結びついてゆくか—

生物学的精神医学研究での自閉症に関する知見を、実際に浜松医科大学とアスペ・エルデの会の共同研究を中心にお話していきます。

<定員 60 名><参加費 1000 円><所要時間 2 時間>

● 石川道子:「ペアレント・トレーニング入門」

アスペ・エルデの会版のペアレント・トレーニングのプログラムです。実際に、ペアレント・トレーニングに参加していただきながら体験してみましょう。

<定員 30 名><参加費 1000 円><所要時間 2 時間><対象：発達障害のお子さんをお持ちの保護者>

● 永田雅子(名古屋大学発達心理精神科学教育研究センター 母子関係援助分野)

「1-2 歳での子どもたちへの早期介入の意義と実際」

軽度発達障害が疑われる子どもたちとその親に対して具体的にどのような支援が必要になってくるのでしょうか。1-2 歳の早期に親子の関係性に介入する際のポイントとヒントを取り上げます。

<定員 30 名><参加費 1000 円><所要時間 2 時間>

<対象：保護者・教師や保育士など支援にかかわる専門家>

(辻井正次先生の一言) 永田先生は、未熟児など発達の非常に早い時期の赤ちゃんの発達支援の若手ナンバー1の先生です。1-2歳の発達の気になるお子さんに具体的にどう関わっていけばいいのか、いろいろな疑問を具体的にぶつけられる場になると思います。今秋、名古屋大学に着任したばかりです。

●堀美和子先生とコスモスさんのワークショップ

「大学生年代の支援を考える」

堀美和子 (http://www.n-fukushi.ac.jp/kenkyu/fukushi_s/hori.html) with コスモス (<http://www.a-yakata.net/cosmos/>)

大学生年代の支援について、実際の青年たちの聴き取り調査の結果を紹介しながら、大学生年代の課題について考えていきたいと思います。前半は、堀が概要的な話を進めます。

後半は、コスモスさんと堀とが対談しながら、当事者であるコスモスさんから『アスペルガーの館』に集まる皆さんの経験などをお聴きしつつ、必要な支援について皆さんで考えていきたいと思います。

<定員 30 名><参加費 2000 円><所要時間 2 時間>

<対象：当事者、保護者・教師や保育士など支援にかかわる専門家>

(辻井正次先生の一言) 堀先生は、アスペ・エルデの会の最初から参加している子どもの臨床家の先生です。当時の小学生が今は青年になり、今は大学生年代の支援を考えてくれています。今回、『アスペルガーの館』のコスモスさんとの対談の形で、青年期当事者の抱える課題を考える機会としていただけるかと思っています。

●野村香代先生・別府哲先生のワークショップ

野村香代・別府哲 <http://www1.gifu-u.ac.jp/~gupsycho/beppu/beppusenseisyokai.htm> : 『心の理論』から考える支援のかたち

他者の心を理解することが苦手さが、自閉症を持つ子どものさまざまな困難につながっていることがあります。そこで今回は、「心の理論」を調べる誤った信念課題の中で、俗に「サリーとアン課題」といわれるものと、「サリーはお見通し課題」(これは木下、2005によるもの)を実際に体験していただきます。そして、高機能自閉症児の実際の反応を紹介し、その支援の方向性について考えてみたいと思います。別府は当日、ワークショップには参加できませんが、プログラムにおいての責任を持ちます。

<定員 30 名><参加費 1000 円><所要時間 2 時間>

<対象：保護者・教師や保育士など支援にかかわる専門家>

私のおすすめ『自閉症幼児の他者理解』

●大岡治恵先生のワークショップ

大岡治恵：「ことばの支援の組み立て方」

発達障害の中でも高機能広汎性発達障害のこども達は、ことばの発達に大きな遅れはないとされています。でも、幼児期から学童期にかけて、発音の不明瞭さ、読み書きの問題、コミュニケーションの取りにくさなど、気になることが山積みです。訓練をして果たして良くなるのか、どう優先順位をつけてかかわっていけばよいのか、ことばの問題に関する支援の組み立て方を考えていきましょう。

<定員 30 名><参加費 1000 円><所要時間 2 時間>

<参加対象：幼児期、学童期の広汎性発達障害のお子さんを持つ保護者・支援にかかわる専門家>

●山上雅子(京都女子大学)

<http://www.kyoto-wu.ac.jp/daigaku/kenkyu/staff/yamagami.html> :

「気がかりな赤ちゃんへの子育て支援を考える」

将来発達障害が顕在化する恐れがある赤ちゃんをより早期に発見し、援助に繋ぐ試みは、ごく一部の先進的な地域や国で試行され始めており、0歳台からの子育て支援や発達支援が、今後ますます重要になっていくと考えられます。発見と援助のシステムを築くのは今後の課題ですが、先進的な地域の実践から学びながら、気がかりな赤ちゃんとその家族について、現状で何ができるかを子育て支援の視点から探ります。参加者は、それぞれが経験してきた気がかりな赤ちゃんの事例や、かかわりの実際、援助の際の問題点など、具体的な経験を交流し、発達障害を視野に入れた子育て支援システムについて一緒に考えましょう。

<定員 30名><所要時間 3時間><対象：保健士、保育士、療育関係者、子育て支援関係者、家族><参加費 1200円>

私のおすすめ:物語を生きる子どもたち—自閉症児の心理療法

●宮地泰士・行広隆次:「PARS入門」

広汎性発達障害の支援ニーズの把握ツールであるPARS（日本自閉症協会版広汎性発達障害評定尺度）について、実際にライブでの評定を含めて、研修を実施します。前半1時間をPARSについての説明をしてから、ライブでPARSを実施します。その後、PARSの臨床的な活用の仕方について解説を加えます。

PARS数部と、関係冊子を当日に配布予定です。（PARSにつきましては、スペクトラム出版社の方にお問合せ下さい。）

<定員 30名><参加費 2,000円><所要時間 2時間>

<対象：広汎性発達障害児支援もしくは保育教育、療育などに関わる専門家（保育士、教師、保健師、心理士、医師など）>

●奥田健次:<http://www.kenjiokuda.com/top-j.htm>

「発達障害幼児のための言語獲得プログラムと行動障害への対応方法」

A B Aソリューションで提供しているA B A（応用行動分析）による言語獲得プログラムを紹介します。また、行動障害への早期対応についても大きな成果を挙げており、実践事例からA B Aによる早期対応の有効性を考えてみましょう。

<定員 30名><参加費 1000円><所要時間 2時間>

●木谷秀勝・宮崎佳代子:「思春期～成人期当事者の自己理解のために」

—臨床描画法（○△□物語法）とWISC-III（WAIS-III）の臨床的活用入門

社会性が伸長する10才以降の思春期から成人期にかけての発達段階では、当事者らしく生きるために自己理解を深めることは重要なテーマです。今回は、高機能広汎性発達障害児者を中心にして○△□物語法とWISC-III（WAIS-III）を通しての臨床的活用の実際を紹介しながら、「当事者らしく生きる」ことの大変さを共有しながら、自己理解を深める手立てについて参加者と検討したいと考えています。この描画法を体験されたい当事者の方やご家族は、可能でしたら、WISC-III（WAIS-III）のプロフィール（可能ならば、解答用紙そのもの）を持参して頂けると詳細な手立ての参考とさせていただきます。もちろん、なくても

参加可能です。

<定員：30名><参加費 2000 円><所要時間：3 時間>

●岡田宏子・田中圭子・辻井正次：『「はじめの一步」プログラム』

はじめに、困っていること・自分を支援してくれる環境・自分の気持ちの処理の仕方などについてアンケートに書き込みをしていただいてから行います。

子育てが難しいと感じる保護者に対しては、いまどきの「ほめる子育て」の仕方と発達障害の基本的な考え方を、テキストを使いながら一緒に考えていくワークショップです。

支援者には、「はじめの一步」を使ってどう支援するのかを学んでいただけたらと思います。ワークに参加される保護者同士で自分の言葉が通じる時間を共に過ごしながら、少しでも希望を持っていただくことができれば幸いです。午後の当事者の社会人とのトークは、保護者はもちろんのこと支援者にとっても、長いライフスパンでその子を考えるきっかけとなると思います。

<定員 30 名><所要時間；1 クール 1 時間、社会人とのトーク 1 時間程度、合計 2 時間>
<参加費 1000 円>

<参加対象；未診断もしくは診断直後の幼児期・児童期の保護者のみ 1 グループ 10 人未満>

および<支援者 20 名>

●吉橋由香・辻井正次：「感情のコントロールの基礎」

ワークブック『いろいろな気持ち』を使ったワークショップです。発達障害の子どもたちに、基本的な感情と身体感覚との関連について考えてもらい、ストレスへの対応の初歩について学んでもらうプログラムです。小学生中学年・高学年対象のプログラムです。前半 1 時間はワークブックの内容を紹介し、後半 1 時間は実際に子ども達にプログラムに参加してもらいます。辻井は当日、主催責任者でワークショップには参加できませんが、プログラムにおいての責任を持ちます。

【定員】20 名 【参加対象】支援者、保護者（後半の時間は子どもの参加を歓迎します）

【時間】2 時間 【参加費】1000 円

●小泉晋一：「家族と教師のためのリラクゼーション入門」

発達障害に関わる人たちのメンタルヘルスの問題は大きなトピックスです。特に広汎性発達障害の子どもを抑うつリスクは高く、母親自身のストレスマネジメントは不可欠です。また発達障害に関わる教師のストレスも強く、心身の健康のケアが重要であるといえます。このワークショップでは、発達障害に関わる人たちのためのリラクゼーションプログラムが用意してあります。

家族や教師のストレスマネジメントを目的としたリラクゼーションプログラムだけではなく、家庭や学校で子どもと一緒にできる子どものためのリラクゼーションも準備しました。心と体の健康について体験的に考えてみましょう。

<定員 30 名><参加費 1000 円><所要時間 2 時間><対象：教員・家族等>

http://www.shotoku.ac.jp/soran/user_record.php?usersPage=8&u_id=28

●神谷美里・辻井正次：「自己理解とクラスメートの理解を創る」

ワークブック『みんなちがってみんないい』を使ったワークショップです。発達障害のある子どももいない子どもも、自分やクラスメートの個性を理解して、より良い学校生活の過ごし方を考えるプログラムです。小学生中学年・高学年対象のプログラムです。前半 1 時間はワークブックの内容を紹介し、後半 1 時間は実際に子ども達にプログラムに参加し

てもらいます。辻井は当日、主催責任者でワークショップには参加できませんが、プログラムにおいての責任を持ちます。

【定員】20名 【参加対象】支援者、保護者（後半の時間は子どもの参加を歓迎します）
【時間】2時間 【参加費】1000円

●川上ちひろ・辻井正次：「広汎性発達障害児のための思春期理解プログラム」

【1】“中学生男子編”

思春期になり二次性徴が現れる中学生男子に対し、「自分がおとなの体になること」の理解をすすめ「おとなになると求められる社会のルール」について学習します。従来型の性教育ではなく、ワークブックなどを用い体験・演習を通じて考えてもらう参加型のプログラムです。当日は男性大学生ボランティアスタッフが、中学生の皆さんのサポートをしてくれます。当事者のプログラムを90分、支援者の交流会を30分もつ予定です。辻井は当日、主催責任者でワークショップには参加できませんが、プログラムにおいての責任を持ちます。

<定員20名：中学生男子10名、支援者10名><参加費1000円><所要時間2時間>

●川上ちひろ・辻井正次：「広汎性発達障害児のための思春期理解プログラム」

【2】“高校生男子編”

二次性徴が現れ心も体もおとなに近づきつつある高校生男子に対し、「おとなになる自分の認識」をすすめ「異性との関わり方を主としたおとなにふさわしい行動」について学習します。従来型の性教育ではなく、ワークブックなどを用い体験・演習を通じて考えてもらう参加型のプログラムです。当日は男性大学生ボランティアスタッフが、高校生の皆さんのサポートをしてくれます。当事者のプログラムを90分、支援者の交流会を30分もつ予定です。高校生以上の当事者男性も参加していただけます。辻井は当日、主催責任者でワークショップには参加できませんが、プログラムにおいての責任を持ちます。

<定員20名：高校生男子10名、支援者10名><参加費1000円><所要時間2時間>

●田倉さやか・辻井正次：「きょうだいへの支援」

発達障害のある子どものきょうだい（兄弟姉妹）を対象としたプログラムです。実際に、『わたしはわたし ぼくはぼく』というワークブックを活用したプログラムです。実際に兄弟姉妹に参加してもらって実施します。小学生を対象としたプログラムになります。辻井は当日、主催責任者でワークショップには参加できませんが、プログラムにおいての責任を持ちます。

プログラム内容の詳細：

きょうだい同士がふれあい、楽しみながら、兄妹姉妹のことについて考えてみる企画です。ワークブックを利用して、途中レクリエーションゲーム等を交えつつ、自分のこと、家族のことを考える活動をします。それから、具体的な生活場면을提示し、障害のある兄弟姉妹のことで気付いたことや、日頃の生活で感じることなどを考える活動をします。まずは、きょうだい同士の出会いの場、ともに楽しむ場になることを目指し、いつもより少し客観的に、自分自身や兄弟姉妹のことを考えてみる機会になればと思います。きょうだい支援にご興味のある支援者の方も、その活動を見ていただきたいと思います。

<定員30名><参加費1000円><所要時間2時間>

参加対象：きょうだい10～15名（場合によって親子での参加も可）、支援者10名

●中田洋二郎(福島大学):「ペアレント・トレーニング入門」

発達障害児の家族支援として、主流なアプローチになりつつある、ペアレント・トレーニングについて、第一人者の中田先生がワークショップを実施します。実際にグループに参加しながら、実施の仕方を体験しつつ、子どもとの関係の持ち方について考えて見ましょう。

タイムテーブル:

わが国の発達障害のペアレント・トレーニングについての概説 (30分程度)

国立精神保健研究所で開発されたプログラム(精研方式)の短縮版(5回セッション)の内容を参加者の演習を通して紹介する(2時間半程度)

参加対象:発達障害の保護者、保育・療育関係者およびペアレント・トレーニング実施者・実施予定者

<定員 30名><参加費 1500円><所要時間 3時間半>

私のおすすめ:軽度発達障害の理解と対応—家族との連携のために
(子育てと健康シ…)

●杉山登志郎:「発達障害の診断をどうつけるか」

発達障害の診断はどのようになされるのか、実際の診断場面のライブをしつつ、どういふ家庭での情報が有益で、何を準備すればいいのかなど、実践的な問題を考えていきましょう。

実際のボランティア親子にご協力いただき、ライブでの初診の実際を、解説を交えながら実施していく形式を予定しています。

わが国の第一人者のライブでの研修企画です。

<定員 30名><参加費 1000円><所要時間 2時間>

私のおすすめ:発達障害の豊かな世界

●宮川医療少年院 小栗院長先生のワークショップ

ワークショップ演題「学習支援の基礎の基礎」

担当者:小栗正幸(宮川医療少年院 院長)

中井富貴子(鳥取県湯梨浜町立羽合小学校 教諭)

前田広味(鳥取市立浜村小学校 教諭)

小学生年代を対象としたイメージでの学習支援です。

読み・書きについての学習支援を考えています。

○ ひらがな、カタカナのあたりに困難のある子

○ 漢字や、特殊音節のあたりに困難のある子

小栗先生がファシリテーターをしながら、鳥取の先生方が実演をやってくれます。それにフロアーを巻き込み、例えばお母さん方が家庭学習でも使ってもらえそうな、ゲーム性溢れる楽しい内容になるそうです。実際に子どもたちが参加したデモンストレーションを取り入れたワークショップです。

<定員 30名><参加費 3000円> <所要時間 4時間>

●内山登紀夫(大妻女子大学)さん、医師からみた心理テスト—サイコロジストに

<http://www.yfdc.net/index.html>

http://www.hum.otsuma.ac.jp/kf_teacher.html :

WISC-Ⅲや「心の理論」検査、PEP-R（Ⅲ）など英米と日本で行う検査は基本的に同じだが、実施方法や解釈などはかなり違う印象を受ける。日本の代表的な教科書で推奨されている解釈や実施方法も自閉症スペクトラムに適合できるかどうか疑問に思うことも多い。自閉症スペクトラムと心理テストについて考えてみたい。

<定員 40 名><参加費 2000 円>

<所要時間 4 時間>

私のおすすめ: 本当のTEACCH—自分が自分であるために
(学研のヒューマンケアブック)

●<以下、アスペ・エルデの会のスタッフの行うワークショップです>

☆宮地泰士・行広隆次：「PARS 入門」

広汎性発達障害の支援ニーズの把握ツールである PARS について、実際にライブでの評価を含めて、研修を実施します。

☆石川道子：「ペアレント・トレーニング入門」

アスペ・エルデの会版のペアレント・トレーニングのプログラムです。実際に、ペアレント・トレーニングに参加していただきながら体験してみましょう。

☆杉山登志郎：「発達障害の診断をどうつけるか」

発達障害の診断はどのようになされるのか、実際の診断場面のライブをしつつ、どういふ家庭での情報が有益で、何を準備すればいいのかなど、実践的な問題を考えていきましょう。

☆大岡治恵：「発音としゃべりの問題解決」

発達障害、特に広汎性発達障害の子どもたちに、発音の問題があることは知られていながらも十分に理解されてこなかったトピックスです。高機能広汎性発達障害でも 35%の子どもに発音の問題があることが知られています。発音や喋りの課題について、実際の支援の仕方も含めて考えていきましょう。

☆小泉晋一：「両親のリラクゼーション入門」

発達障害の両親のメンタルヘルスの問題は大きなトピックスです。特に、広汎性発達障害の子どもの母親の抑うつリスクは高く、母親自身のストレスマネジメントが重要です。今回、いくつかの仕方での家族のリラクゼーションのプログラムを用意しました。体験的に考えていきましょう。

☆明翫光宜：「発達支援につなげるためのロールシャッハ法」

投影法であるロールシャッハテストによる、広汎性発達障害の人の理解について、ロールシャッハ反応からわかる内容について、支援につなげていくことを考えていきましょう。

☆神谷美里・辻井正次：「自己理解とクラスメートの理解を創る」

ワークブック『みんなちがってみんないい』を使ったワークショップです。発達障害のある子どももいない子どもも、自分の個性を理解しながら、よりよい学校生活での過ごし方を考えていくプログラムです。小学生対象のプログラムです。辻井は当日、主催責任者でワークショップには参加できませんが、プログラムにおいての責任を持ちます。

☆吉橋由香・辻井正次：「感情のコントロールの基礎」

ワークブック『いろいろな気持ち』を活用したプログラムで、発達障害の子どもたちに、基本的な感情と身体感覚との関連や、ストレスへの対応への初歩を実際に行っていくプログラムです。辻井は当日、主催責任者でワークショップには参加できませんが、プログラムにおいての責任を持ちます。

☆田倉さやか・辻井正次：「きょうだいへの支援」

発達障害のある子どものきょうだい（兄弟姉妹）を対象としたプログラムです。実際に、『わたしはわたし ぼくはぼく』というワークブックを活用したプログラムです。実際に兄弟姉妹に参加してもらって実施します。小学生を対象としたプログラムになります。辻井は当日、主催責任者でワークショップには参加できませんが、プログラムにおいての責任を持ちます。

☆岡田宏子・辻井正次：『「はじめの一步」のプログラム』

診断直後の両親を対象とした『はじめの一步』プログラムを実施し、発達障害をもつ子どもの親として何が出来るのかを考えてみましょう。実際の演習とともに、当事者成人とのトークもあります。辻井は当日、主催責任者でワークショップには参加できませんが、プログラムにおいての責任を持ちます。

☆川上ちひろ・辻井正次：「新しい性教育プログラム」

従来型ではなく、子どもが自分の身体成熟を理解し、そのことでの社会的なルールの変更をどうやっていくのか、体験的に考えてもらいます。高校生の男児を対象としたプログラムです。辻井は当日、主催責任者でワークショップには参加できませんが、プログラムにおいての責任を持ちます。

☆浜松医科大学精神科：「脳画像研究でわかってきていること」

生物学的精神医学研究での自閉症に関する知見を、実際に浜松医科大学とアスペ・エルデの会の共同研究を中心にお話していきます。

☆浜松医科大学精神科（講師調整中）：「最近の遺伝研究でわかってきていること」

生物学的精神医学研究での自閉症に関する知見を、実際に浜松医科大学とアスペ・エルデの会の共同研究を中心にお話していきます。

☆永田雅子：「1-2歳での早期介入の意義と実際」

軽度発達障害が疑われる子どもたちとその親に対して具体的にどのような支援が必要になってくるのでしょうか。1-2歳の早期に親子の関係性に介入する際のポイントとヒントを取り上げます。

☆野村香代・別府 哲：「「心の理論」の発達支援入門」

発達障害児の認知発達において、いくつかの転換点があると言われています。そうしたトピックスのなかでも『心の理論』は大きな課題の一つになります。子どもの認知発達をどう理解し、支援につなげていくか考えていきましょう。＜定員 60 名＞＜参加費 1,000 円＞＜所要時間 2 時間＞

●神尾陽子(国立精神・神経センター)：

「自閉症の早期兆候を知る：M-CHAT 入門」

幼児期の早期から子どもの発達特性を捉えることは、発達障害児者支援の基本中の基本です。1歳半健診からの発達支援を考えていく場合に、必要なスクリーニング・ツールについて知っておくことはとても大切なことです。

<定員 30名><参加対象：特定はしませんが、できれば健診業務に関連した仕事に就いている方>

<参加費 1000円><所要時間 2時間>

●明翫光宜(中京大学心理学部)

<http://www.chukyo-u.ac.jp/educate/psychol/kyoin/myogan.html> :

「発達支援につなげるためのロールシャッハ法」

医療現場を中心に広く使用されているロールシャッハ・テストにおける広汎性発達障害の人の理解について考えたいと思います。前半では発達支援につなげるためのロールシャッハ法のモデルについて紹介し、後半ではロールシャッハ・テストの解釈が発達支援にどのようにつながっていったかについて、事例を用いて説明したいと思います。

前半のセミナーでは質問を、後半の事例検討ではディスカッションを積極的に受け付けたいと思います。なお、ロールシャッハテストを用いる関係上、本ワークショップの参加者は、支援者に限定させていただきます。

プログラムの詳細

① 前半1時間：発達支援につなげるためのロールシャッハ法のモデルの講義

② 後半1時間：事例（発達支援につなげるロールシャッハ・テストの解釈）

<定員 30名><参加費 1000円><所要時間 2時間>

●日本臨床心理士会さんのワークショップ

日本臨床心理士会 <http://www.jsccp.jp/> 『臨床動作法』

(1) 講師；緒方登志雄・藤吉晴美

(2) 午前10:00—12:00（臨床心理士のみ）、午後は一般参加も可で、13:15～16:30。入れ替え制になる可能性もあります。

(3) 定員 一般参加者2～30名程度（臨床心理士 40名+αすでに募集終了）

(4) 参加費 1000円

(5) 所要時間：1時間ほど

(6) 参加対象：臨床動作法に関心がある方

(7) プログラム内容の詳細

午前：臨床動作法研修会（臨床心理士対象）

午後：臨床動作法体験学習（臨床心理士及び一般参加者対象）

こちらのワークショップにご参加いただく際には、日本発達障害ネットワーク年次大会にも申し込みいただくことになります。ご了承ください。

私のおすすめ：動作法ハンドブック・基礎編—初心者のための技法入門(改訂版)

●萩原先生のワークショップ

萩原拓（北海道教育大学）

<http://www2.dosanko.co.jp/hokkyodai/search/syousai.php?uid=hagiwara> :

「個別支援計画につながる発達障害のアセスメント」

検査や観察で得られたデータは、どのように個別の支援へとつながっていく

のでしょうか。通常学級を始め、さまざまな現場で実践できるアセスメントを考えていきましょう。

<定員 30 名><参加費 1000 円><所要時間 3 時間>

●白石雅一(宮城学院女子大学)

「幼児・児童・学童期で日常生活で困ることへの対処と工夫の仕方」

特に、知的障害を合併して、言語での指示が通りにくい場合、子どもたちのどこに視点を置き、どう関わればいいのか、その実際を考えてみましょう。『子どもの療育相談室』、『宮城県発達障害者支援センター「えくぼ」』、仙台市学校生活巡回相談等での実践を通して、親御さんや現場の先生方の「お困り」と「お悩み」に応えたいと思います。また、「こだわり行動への対処法」についても具体的に説明します。

<定員 30 名><参加費 2000 円><所要時間 4 時間>

●高橋和子先生のワークショップ案内

高橋和子 (アルクラブ)

「語用論的コミュニケーション支援入門ー大人が変われば子どもも変わるー」

* 所要時間 4 時間

* 参加対象 発達障害児者にかかわる親、支援者、専門家

* 参加費 2500 円

語用論的なコミュニケーション支援のあり方について、実際にやり取りのビデオ分析を行いながら検討を進めていきます。

前半 2 時間は、語用論的コミュニケーション支援の基礎についてこちらで準備したビデオを分析し、語用論支援の基本について学びます。後半 2 時間で、親ー子 (発達障害の子どもは 0 歳児～大人までどの年齢でも OK です。)、もしくは支援者・専門家ー子ども 1 対 1 での会話場面を 2 ケース分析します。会話場面は、発達障害児者 (当事者一人) とかかわる大人 (1 名) が楽しく、自然にやりとりしている場面で結構です。幼児であれば、楽しくやりとりして遊んでいる場面でも OK です。この 2 ケースについては、ワークショップ参加者の中から分析を受けてみたい方を募集致します (ワークショップ参加者の前での分析になりますが、それに同意出来る方で、なおかつ事前 (VTR 提出期限 11 月 24 日まで) に会話場面を VTR 録画し、高橋まで提出して頂くことが条件になります。VTR 録画の方法については、下記を参照下さい)。

●<ビデオの撮り方>

1. ビデオ撮影を始めましょう

<撮る場面を決めます>

・ 場面は自由にお決めください。ティータイムの会話でも、ゲーム、工作、遊びの場面など楽しく自由にやりとりしている場面で結構です。普段家庭や学校でありえないような特別な場面をつくる必要はありません。

・ 大人と子ども 1 対 1 の場面にして下さい。予め三脚にビデオカメラをセッティングし、子どもと大人の顔の表情、2 人がフレーム内に収まるように撮影して下さい。撮影は、標準 (3 倍速は不可) でお願いします。撮影した画像を VHS ビデオテープに標準スピードでコピーして下さい。

・ ビデオを見れば何がおきているかよくわかること、そして画像と音声が見え、聞こえることが重要です。

場面の例を参考までにあげておきます。

- ・ 家庭で宿題をしているところ
- ・ おやつを食べながらくつろいでいるとき
- ・ 子どもが提案してきた遊びに付き合っているところ
- ・ 1対1でお残り勉強している場面
- ・ 個人指導、カウンセリングルームでの話し合い など

<ビデオ録画時の留意事項>

後で再生した際に分析しやすいように、以下の点に留意してください。

- 1) お子さんとかかわっている一続きの場面を30分程度ビデオに撮ります。(録画時間はあくまで目安であり、もっと短くても結構です。)
- 2) 子どもと大人の両者が写るようにし、子どもと大人の表情がわかるように撮ります。大人でロングヘアーの方は、顔に髪の毛がかぶさらないように、予め髪の毛をくくるか、留めておいて下さい。
- 3) 子どもの視線や表情が読み取れる大きさ、アングル、照明(逆光)に注意してください。
- 4) 会話に直接関係のある道具(媒体)があれば、会話とそれがどうつながっているかが分かる程度に画面に入れてください。(例 トランプ遊びをしていた場合、カードを並べた机上の様子がおおよそわかるようにするなど)
- 5) 窓やドアが開いていたり、音楽がかかっていたりすると、ことばが聞き取りにくくなります。また、屋外での撮影やズームで撮った場合は、音が小さくなり、後で再生しても聞き取れないことがあります。音声がいかが入っているかどうか気をつけます。

2. 文字転写資料を作りましょう

- 1) 録画したビデオを見て、分析したい(気になる場面)を決めます。
- 2) その中で焦点を当てるところ1分程度を決めてください。
- 3) その場面での子どもと大人の行動をひとつひとつ取り上げ、書き出します。
 - ・ 発声(ことば、独り言)
 - ・ 身振りや視線、表情(人やものを見る、笑う、受け取る、渡す、指差す、触わるなど)
 - ・ 実際の行動(立ち上がる、蓋を開ける、字を書く、うろうろするなど)
- 4) 文字転写資料のサンプルを参考にしてください。

★日本自閉症協会：「サポートブック活用術・ペアレント・メンター入門」

発達障害の子どもを持つ両親を当事者目線でサポートする具体的な方法を研修していただく機会です。日本財団協賛(助成事業)。

★感覚統合療法学会：「さまざまな取り組みの紹介(仮題)」(無料企画)

★日本臨床心理士会：「臨床動作法入門」

★日本作業療法士会：「さまざまな取り組みの紹介(仮題)」(無料企画)

★武藤直子・太田昌孝(心の発達研究所)：「太田のstage入門」

自閉症児者の認知発達(知的な処理能力)を見ていく場合に、自分の子どもがどこまで成長しているのか、どこが苦手なところなのか、太田のstageにそって、考えて見ましょう。実際に、子どもたちへの評価の実施を同席しつつ、考えていきましょう。

★中田洋二郎(福島大学)：「ペアレント・トレーニング入門」

発達障害児の家族支援として、主流なアプローチになりつつある、ペアレント・トレーニングについて、第一人者の中田先生がワークショップを実施します。実際にグループに参加しながら、実施の仕方を体験しつつ、子どもとの関係の持ち方について考えて見ましょう。

★山上雅子(京都女子大学)：「気がかりな赤ちゃんとその家族への子育て支援」

0歳台からの子育て支援や発達支援が支援のなかでの重要なポイントとなっています。実際に0歳から何が出来るのか、一緒に考えてみましょう。

★安達 潤(北海道教育大学)：「ASDの社会性トラブルに対する包括的支援」

ASDの社会性トラブルについて、認知的枠組みから整理し、実際の対応を検討してくアプローチを考えていきましょう。

★式部陽子・井上雅彦(兵庫教育大学)：「ペアレント・トレーニング入門」

ペアレント・トレーニングの井上版を実際に、ペアレントトレーニングに参加していただきながら体験してみましょう。井上先生は所要で当日は不在ですので、ワークショップそのものはスタッフの式部先生が実施しますが、プログラムは井上先生が責任を持って作成したものです。

★萩原拓(北海道教育大学)：「個別支援計画につながる発達障害のアセスメント」

心理検査など、さまざまなアセスメント・ツールから、子どもの様子をどう評価し、どう支援の手立てをつけていくのか、考えていきましょう。

★木谷秀勝(山口大学)：「思春期-成人期当事者の自己理解のために○△□法入門(仮題)」

思春期・成人期のライフステージにおいて、自己理解は非常に重要なものです。○△□法を活用して、自己理解の手立てについて、考えていきましょう。

★白石雅一(宮城学院女子大学)：「幼児・児童・学童期で日常生活で困ることへの対処と工夫の仕方」

特に、知的障害を合併して、言語での指示が通りにくい場合、子どもたちのどういうところに視点を置き、どう関わればいいのか、その実際を考えてみましょう。『子どもの療育相談室』、『宮城県発達障害者支援センター「えくぼ」』、仙台市学校生活巡回相談等での実践を通して、親御さんや現場の先生方の「お困り」と「お悩み」に応えたいと思います。また、「こだわり行動への対処法」についても具体的に説明します。

★岩永竜一郎(長崎大学)：「感覚過敏性への対応(仮題)」

感覚過敏性への対応について、どういう補助的なツールを使えばいいかなど、具体的な紹介も含め、考えていきましょう。

★山下裕史朗(久留米大学)：「ADHDの子どもたちのサマーキャンプから(仮題)」

ADHDの久留米大学でのサマーキャンプの様子を紹介し、日常的な支援のあり方について考えてみましょう。

★柏木理江(TOSCA・アスペの会東京)：「成人期当事者へのサポート：リラクゼーションを中心に」

成人期当事者と対象としたプログラムで、リラクゼーションと自己理解を中心に行います。

★高橋和子(アルクラブ)：「語用論的コミュニケーション支援入門-大人が変れば子どもも変わる-」

語用論的なコミュニケーション支援のあり方について、実際にやり取りのビデオ分析を行いながら検討を進めていきます。